

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2007年 12月号 (隔月刊) 第94号

「富士見市国際交流フォーラム」開催
日本人と外国人とが地域で交流
様々な文化体験や在日外国人の主張など



「幸せを招く」というタイの民族舞踊をみんなで踊る



外国語で自分の名前を書くこと...



篆刻で印鑑を彫る



タイ式古式マッサージ

11月18日、ふじみ野交流センターにおいて、富士見市などが主催する「国際交流フォーラム」が開催されました。この催しは、地域の日本人と外国人が交流しようと、毎年開催されているもの。FICECも「わいわいトーク」や「What's Your Name」「世界の遊び」などのコーナーを担当して行われました。

当日は正午から午後4時までの間、会場にさまざまなコーナーが設けられて楽しみましたが、第1部「体験と交流コーナー」では、太極拳、てん刻、和太鼓、茶道

の体験、民族衣装や着物の試着と記念撮影が行われました。外国籍の人たちが日本の着物姿で撮影しているコーナーでは多くの人たちで賑わっていました。

また、第2部「ティータイム&アトラクション」では、アメリカのお菓子(ブラウニー:ココア風味焼き菓子)、ロシアのお菓子(カーラブキ:ロシア風一口マドレーヌ)、イタリアのお菓子(ビスコッティ:イタリア風クッキー)でホッと一息、さらにその後はアトラクションとしてタイの踊りをタイ国籍の人達と会場にいた日本人の一部の人達とで

一緒に楽しく踊りました。

さらに、会場では「在日外国人の主張と講演」などが行われ、中国人留学生、スリランカ国籍住民、ネパール留学生、フィリピン国籍住民らによる主張は、日本人のきちんとしたマナーを持っていて見習ってきたいという声が聞かれ、交流ムードが高まっていました。また、最後に、東京入国管理局担当者から、「東京入管の昨日・今日・明日」と題して、増加する外国人入国者に対する国の施策についての講演がありました。(取材:篠島幹昌)

国際子どもクラブで初めての遠足

子ども7人と大人6人で上野動物園へ 動物との出会いやクイズをして楽しむ

ふじみの国際交流センター(FICEC)の国際子どもクラブでは、11月10日(土)に東京・上野動物園への遠足を行った。

国際子どもクラブは、外国から来た小学生、中学生などの子どもたちを対象に、毎週土曜日の午前中、日本語学習や学校での勉強の補習をしているが、勉強以外のことも楽しんでもらおうと、今回初めて行われたもの。当日は、フィリピンや中国出身の小中学生7人と、保護者1人、そしてボランティア5人が付き添って、動物園でさまざまな動物たちとの触れ合いを楽しんだ。

日本で動物園に行くのは初めてという子どもが多く、みんながわくわく。あいにくの雨模様だったが、午前9時に上福岡駅に集合し、途中の駅からの参加者と合流しながら、上野へ向かった。中学2年生の庄司雅美ちゃんは、子どもクラブに入ったばかりだが最年長。それだけに、小さな子どもたちを見守ったり、切符を配ったりするのを手伝うなど、みんなが協力しての遠足だった。

動物園では、「パンダの名前は？」や、「ペンギンのひなは何色？」などの問題が、1枚に1問ずつ書いてある動物園クイズを配った。行き先を決めたり、みんなと話す糸口になったり、日本語の勉強にもなるようにと準備したもの。早速、パンダを見に行くと、初めてパンダを見る子どもが多く、食い入るように見つめていた。そして、次は、ホッキョクグマへ。ここでは、「ホッキョクグマは、何を食べるの？」という答えを探さなくてはならない。小5のまなみちゃんが、飼育員に質問すると、「ソーセージだよ」と答えながら、手に持っていたソーセージをくれた。まなみちゃ



んとなるみちゃん(小5)は、すごく喜んで、どきどきしながら、えさを待っているホッキョクグマに向かって、投げた。

ゴリラ、トラ、ライオンなどを周っていると、傘もささずに走り回っていた子どもたちは、まだ1時間くらいしかたっていないのに、「疲れたー」「お腹へったー」の大合唱。少し早いけど、昼食の時間とすることにし、屋内の休憩所に向かった。そこでは、みんな持参のお弁当を広げる。お母さんが作ってくれたという豪華なお弁当を広げる子、朝4時に起きて自分で作ったというお弁当を広げる子、さまざま。お弁当のあとは、お菓子まで広げて、遠足らしくなった。

お昼を食べたあとは、雨も小降りになった中、なかよし広場に向かう。ここでは、ヤギ、羊、ブタ、ニワトリなどが放し飼いになっている。子どもたちは、ニワトリを抱きかかえたり、羊をなでたりと大喜び。ちょうど、ヤギのえさやりタイムにかかり、ヤギにやる草をもらう。そーっとえさをやったり、怖くて投げてしまったりと、それぞれに楽しんでいる様子だった。さらにその先のこども動物園



では、うさぎや、ハムスターを抱っこさせてもらう。さっきまで、迷子が心配になるくらい元気だった たかなおくん(小4)も、たけるくん(小1)も、おとなしく、大事にモルモットを抱えている。制限時間1時間、だれも飽きることなく、そっとなでていた。

次に、真っ暗な小獣館に入ると、子どもたちは、怖がりながらも喜んで、ミーアキャットや、コウモリなどを発見するたび、前や後ろに走って、こういうのがいたよーと教えあっていた。そうこうしているうちに、最初は、お母さんにべったりだったニコルちゃん

(小2)も、ありさちゃん(小3)と仲良くなり、手をつないで歩いている。園内のモノレールに乗ったら、いよいよ帰る時間だ。

今回の遠足では、子どもたちはもちろん、大人たちも楽しんでいたのが印象的だった。子どもたちは、遠足を通して、みんなとより親しくなったことで、さらに子どもクラブに通いやすくなったことと思う。今後も、このようなイベントを開催して、ますます子どもクラブを居心地のよい空間にしていきたい。

(文・上原美樹)

楽しかったし、みんなとの絆が深まった 庄司雅美さん(中2)

私は今年の10月からふじみの国際交流センターに通うようになりました。センターでわからない勉強を教えてもらったり、悩みを聞いてもらったり、とても親切にしてもらっています。

11月10日、上野動物園に行きました。初めて会う人ばかりで緊張もしたけど、すぐみんなと仲良くなれてはしゃぎ回るようになりました。「ペンギン見に行こう!!」「あー、ホッキョクグマだ!!」……声をかけながら園内を見て回っていったら、あっという間にお昼の時間。お腹がすいているせいか、みんなパクパクと自分の弁当を食べていました。み

んなと食べた弁当はいつも以上に美味しいものでした。

午後は、動物と触れ合う時間です。ヤギにエサをやったり、ニワトリを抱っこしたり、みんなの笑顔がとても輝いていました。園内のモノレールに乗って、今日の幕を閉めることができました。今日は一日中雨が降り続けましたが、みんなは雨に負けないくらい明るかったです。遠足に行って、みんなとの絆が深まってよかったなあーと思いました。

私はこれからも、みんなとセンターでがんばって、自分の夢に向かって歩いて行きたいと思います。

子どもとともに育つ親の会

外国籍ママたちとの本音トーク

子育ての悩み、文化の違いからの戸惑いなど続々

子どもとともに育つ親の会の9月のイベントは「世界一周で出会ったママ&日本で頑張る外国籍ママの本音トーク」でした。当日は中国、韓国、ロシア、日本の6組の親子が集まり、ピースポートでの世界一周をした人の話を聞いたり、日本で子育てする上での悩みや戸惑いを話し合いました。

日本で生活する上での悩みは、文化や習慣の違いによるものが多く出されました。日本人には当たり前の「順番に並ぶ」とか「みんな平等」という考え方や習慣が、外国の方からすると窮屈で時に理不尽に思えることもある、ということは意外なことでした。例えば、日本の病院では、急患を除けば老若男女を問わず基本的には診察券を出した順番（または予約の順番）で診察を受けます。でも、国によっては小さな子を長時間待たせるのは無理があるということで、後から来た場合でも赤ん坊や子どもは優先的に診察が受けられるとのこと。話を聞けば「へえ、国によって違うんだ。そういう考え方もあるよね。」と思います。でも、もしそういう事を知らなかったとして、自分が病院で待っているときに、いきなり外国籍の人が「子どもだから先に診てください」と言い出したら、心の中で不快に思うでしょう。こうした誤解を生まないためには、日本人と外国籍の人たちがもっともっと交流して、お互いの文化や習慣の違いを知る機会を増やすことが大切だと、あらためて感じたイベントでした。

今回は初の試みとして「託児つきイベント」としました。来てくれた保育士さんのおかげで、子どもたちはとっても楽しそうに遊んでいました。ボランティアで来てくれた2名の保育士さん、そして通訳の寺村さん、インターンシップの学生さん、本当にありがとうございました！

また、10月のイベントは、稲刈りが終わった田んぼ沿いの土手にお弁当を持って遊びに行きました。当日は汗ばむくらいのポカポカ陽気の中、ダンボールで作った滑り台で遊んだり、ススキやお花を摘んだり、ごろんと横になって秋の空を見上げたり……。ゆっくりとした穏やかな時間を楽しむことができました。

さらに11月には、「美味しい国際交流 ~韓国編~」として、親子で美味しい韓国料理を作って楽しみました。



12月はクリスマスイベント

12月11日には、今年も「親子で作るクリスマス」を開催します。去年はみんなで大きなツリーを作りました。今年は何でしょうか。お楽しみに！

南蔵王に青年の学び舎を設立

いまの日本の青年たちにできることを

南蔵王協働学舎 沼田伊久俊

『世界で一番豊で、世界で一番不幸な青少年』これが、現代日本の青少年の姿ではないかと思う。発展途上国の青少年は学ぶことの意味について、「将来、親に楽をしてもらいたいから何々をしたい」と目を輝かして話す。ところが、日本の青少年で、目を輝かして「家族や親のために何かを学びたい」と発言する青少年ほとんどいない。希望を秘めた輝く目をした青少年を見つけることが困難である。豊かさの中で、青少年の夢や希望が失われてしまった。「人のために、家族のために何かをする」ではなく、楽をして金儲けができればそれでいい。親も子どもにそれを求めていたりする。

私は、そんな考え方に背を向けた青年達に何かできないかと考えた。体を動かし、汗しながら、自然と対話して何かを学ぶ、それが『農』の世界ではないか、その中にこそ現代青年の学びと癒しの場所があるのではないかと考えて、退職後は不登校から来る引き籠りの青年や、ニートの青年を対象に『農』を通じた学舎を作ろうと、こけし収集の趣味で交流のあった宮城県白石市鎌先温泉に行動の拠点を設けた。工人たちは陰になり日向になり私をサポートしてくれ、半年あまりで八宮地区に拠点を借り受けることができた。敷地面積1町

歩、1階は作業スペース、二階は台所付きの10畳の和室と、10坪程の会議室もある。

ここを管理している八宮農業生産組合から、養蜂を行うための畑2町歩も借りた。来年にはここに菜の花畑が誕生する。蜂と畑を増やし、クローバーも植えたい。そうすれば、何人かの青年を受け入れることができる。

学びの先生は地元の農民である。農民もまた青年が『農』の中で育つことを楽しみにしている。もしかしたら、彼らが地域農業を救う担い手になるかもしれないとも考えている。

今日、養蜂を手伝ってくれる農民の昇さんの家へ行った。奥さんが「父さん、ぼけないためにも頑張りなよ」の言葉に、「車で通うとガソリン代がかかるので、バイクでも買うかな。養蜂の勉強ももっとしなければ、教えるときは大変だからな」と、目を輝かして話す。昇さんと同じように、目を輝かして話す青年がそこから生まれることを望みつつ、私は鶏の平飼いや綿羊を飼って夏草の対策をしつつ、秋にはバーベキューをしたら楽しいな、そんな馬鹿話をしています。活動は楽しくやるのが一番大切です。

(筆者は元ふじみ野市勤務。ふじみの国際交流センター理事)

南蔵王協働学舎から少しばかりのコマーシャル

蜂蜜オーナー募集

1口2万円で毎年春と秋に蜂蜜を送付します

資金がありませんので、蜂蜜オーナーを募集しています。1口2万円、5年間毎年春と秋に、各5合の蜂蜜を送る制度です。生産者の見える活動に協力をお願いします。申込書はふじみの国際交流センターに置いてあります。

DV 被害者支援ボランティア育成講座

受講者募集中 (2008年1月20日〆切)

ふじみの国際交流センター (FICEC) では、埼玉県からの委託事業として、DV被害者の方々を支援するためのボランティア育成入門講座を開催することになりました。

DV (ドメスティックバイオレンス = 家庭内暴力) について正しい情報を学習し、自分が被害者にも加害者にもならないように、ぜひこの機会にご参加ください。

開催日時：2008年2月2日 (土)、2月9日 (土)

(いずれも 13:00-16:00)

開催場所：ふじみ野市立市民活動支援センター

(東武東上線上福岡駅駅前)

受講料：無料

申込、問合せ：ふじみの国際交流センター

TEL.049-256-4290

講座内容

2月2日(土) 13:00 ~ 16:00

DV被害者に関わる法律の基礎知識
シェルターを運営して

2月9日(土) 13:00 ~ 16:00

DV相談者にたいする現場対応
燃え尽きないために

たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間(株)オムテック様、青峰社様、海老原夕美法律事務所様、東入間遊戯業防犯協力会様、国際ソロプチミスト様、カトリック上福岡教会様をはじめとして、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後ともご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター (FICEC) 理事長 石井ナナエ

困っている隣人に手を差し伸べる という気持ちで 長谷川 美紀子

今から3年前に定年退職となり、その折、「何か地域でボランティアがしたいね」と、親しくしていた方とともにふじみの国際交流センターを訪問し、活動に関わるようになりました。

最初の仕事は国際理解教育の一環として、小中学校に外国籍の人をお連れして授業をしてもらい、その国のことを紹介したり、子どもたちと交流することでした。授業と一緒に参加することで私たち自身が勉強になり、楽しいひと時でした。

こうしてセンターに出入りするようになり、故郷を離れて日本で生活している外国人の中には、大変な苦勞をしている人がいて、その人たちをサポートするのがセンターの重要な仕事であることを知りました。昨年末、センターで当番の仕事をしているときに知り合ったペルーの女性とは、個人的な深い付き合いとなりました。その人は、お正月前なのに電気、ガスが止められてしまうという状況となったため、それを放っておくことはできず、センターも

年末年始の休みに入ったために、個人的に対応しました。年が明けてからは、生活保護の申請、新しいアパート探しなどで奔走しました。彼女はとても真面目で、私に対する感謝の気持ちも示してくれたので、つつい私も力が入りました。

国際交流センターの仕事というよりも、「困っている隣人に手を差し伸べる」という気持ちでいまも関わっています。センターのスタッフとしては実に頼りない私ですが、たまに顔を出すとみんなが暖かく迎えてくれます。誰でも暖かく包みこむ雰囲気、センターのすばらしいところだと思います。

現在、私が担当している「国際スポーツクラブ」は、地域住民誰もが参加可能な総合型地域スポーツクラブという活動と連携して、バスケットボールを楽しんでいます。常連の中国人留学生（大学生）フィリピン国籍の地域住民、香港出身で日本企業に勤める会社員、そして日本の友達を作った中国人小学生、みんなスポーツを通じて出会い、繋がる仲間たちです。

出会ってはじめてのうちは、日本人と外国籍の人たちがお互い少し気遣いがあるものの、次第に当たり前のように

地域スポーツクラブとFICECを連携 させて国際交流活動 篠島幹昌

コミュニケーションを取れるようになり、スポーツをプレーすることだけでなく、会話もだんだん増え、趣味やプライベートの話で盛り上がっていきます。やがて会って話すこと自体も大きな楽しみになっていきます。国籍は違っても仲良くなっていく過程は一緒なんだと感じています。

そうやって仲良くなった地域外国籍の人達の参加率はとても高く、おそらく生活の一

部になっていることも嬉しく思っています。

国籍に関係なく、より開かれた場になっていくように雰囲気づくりをしていき、外国籍の人達（子供から大人まで）とスポーツという言葉で交流していく場づくりをし、そして自分自身たくさんの外国籍の人達と仲良くなる、これからもライフワークにしていきたいと思っています。

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 上福岡教会 候 国際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 菅山修二 鈴木謙二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 三澤真理 村上省三 百瀬 滉 森田信子 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター (FICEC) のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ 上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。 毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>ポルトガル語教室 ブラジルで通訳の仕事をしていた方が指導してくれています。 毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室 グループレッスンです。 毎週水曜日午後7時～ 受講料：月4回4000円 第二、第四火曜日 午後1時半～3時半 受講料：1回1000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

11月20日から、「テロ対策」のため、16才以上の外国人を対象に日本全国の空港や港で、入国する外国人に対し、指紋採取と顔写真撮影が、義務付けられました。わたしは、「テロリスト=外国人」というイメージが植えつけられないか、不安ですし、なんでもすぐに米国に追随する日本に反対です。(上原)

寒い日が続きますが、国際スポーツクラブに来ている中国籍の留学生や子供は

みんな元気です。今では日本の子ども達ともすっかり仲良くなって、やんちゃぶりには手をやいて「こら～っ!!」としかることも(笑)。ある日帰り際に中国の子どもが「家の鍵がなくなった」というので、みんなで大捜索。よくよく確認すると、かばんの底にはさまっていて一件落着。その子の「あったよ!」という安心顔に、思わずつられて笑ってしまいました。(篠島)

最近、本当にテレビを見なくなりました。

とにかくつまらない。で何をしているかという、パソコン。いま、映画はパソコンで見るのがいちばんって知ってました? gyaoo (ギャオ) やYahoo 動画なんてサイトには洋画も邦画もごっそりあって、タダで見られる。ニュースだって、インターネットは早いね。2011年には地上波放送がなくなるらしいが、ついでに放送を全部やめてしまった方がいいかもしれない。たぶん、ぜんぜん困らないと思う。(内藤)

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ (センター理事長)
 編集委員 (50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291
 生活相談専用電話:049-269-6450